

MFSL の “Four & More” (Miles Davis) ¥3,800 を如何にして鳴らすか？

注 1) MFSL とは Mobile Fidelity Sound Lab のことです。

注 2) このアルバムは ORIGINAL MASTER RECORDING シリーズのひとつです。

そもそも “Four & More” については長年納得出来るサウンドが得られず悩みの種でした。演奏の熱気、音質の良さのどちらか（あるいは両方）が欠けていました。音源と装置の双方に問題がありそうでした。

手元に有る CD 系では：

－SME(Sony Music Entertainment)の SRCS9707 (フツの CD でステレオ盤) ¥1,995

－SMJ(Sony Music Japan)の SICP10087(ハイブリッド SACD でステレオ盤)¥2,730

－Sony BMG MUSIC ENTERTAINMENT の “MILES 50 YEARS COLUMBIA”

(24-BIT DIGITALLY REMASTERED 盤) ステレオですが、¥？

があります。2 番目と 3 番目のステージ写真は全く同じ (カッコいい)。

音源としては 3 番目がベストかなという印象です。

LP としては：

－CBS ソニーの SOPL161 (ステレオ盤) ¥2,000

ですが、ノイマン社製カッティングヘッド SX-68 をソニーのアンプとコントロールユニットで駆動しているにしては薄いベールが掛かったような物足りないサウンドです。

中域がやや張り出したような印象で、そういう点で幾分かジャズ的ではありますが、どう聴いてもマスタリングがプアです。これはディスク・ユニオンでも 700 円くらいの値札しか付きません。

そこで、本年 (2013 年) 2 月に再発されたばかりの MFSL の盤に大きな期待を寄せたわけですが・・・。

確かにトニー・ウィリアムスのシンバルなど、あれこれの音はきれいに入っています。

しかし、まるでクラシック音楽のような印象です。演奏の熱気というものがまるで感じられません。

マスタリング・エンジニアは Krieg Wunderlich、ドイツ人かもしれないですね。

MFSL は 70 年代にビートルズの高音質アナログレコードの発売でオーディオファンに注目されたそうですが、ボーカルがやや後ろに引っ込むというインプレッションもありました。

米国の伝統的なジャズサウンドの作り方とは大分異なっているという印象です。

イコライジングが違うのだと思います。

では、この盤を一体どうすれば鳴らすことが出来るのでしょうか？

まず、カッティングの音圧レベルが相当低いので音量をかなり上げるとい手があります。オーディオ装置側としてはハウリングに強いこと、SP に対しリニアにパワーを入れられることが条件です。いずれもあまり一般的ではありませんし、真空管アンプでは相当苦しいことになりそうです。

次に、トーンコントロールで中域を持ち上げてやることになります。

最後はトーンアームです。通常の S 字 9 インチでなく、7 インチのストレートで好結果を得ることができました。しかしこれも一般的に出来ることではありません。

それにしても鳴らし難い盤だなあと思いました。

さて、ある意味で鳴らし易いのではないかと思われる Columbia の 2 EYE と言われるオリジナル盤に目を向けてみます。

日本国内ではあまり出回っていませんが、海外では結構出物があります。

まずモノラル盤の CL2453 ですが、VG(Very Good)で約 30 ドル (shipping チャージが極東の場合約 17 ドル)、VG+だと約 40 ドルです。

ただし、この盤をベストな状態でトレースするためには 1966 年当時の仕様のモノラルカートリッジが必要です。

一方、ステレオ盤 CS9253 の方はぐっとお安くなって VG+でも 10 ドル前後です。

(送料は航空便の場合は 20 ドル超)。

最後に MFSL の “ORIGINAL MASTER RECORDING” シリーズに関する宣伝文句です。

「GAIN 2 Ultra Analog System or Vinyl」というカッティングシステム j の設計は

Tim De Paravicini、コンサルは MFSL の創設者の一人である Stan Rick。

システムの構成は： Studer のテープレコーダー (電気系は当時の模造品)

カッティングアンプは手作り

カッティングヘッドはオルトフォン

旋盤は Neumann の VMS-70

システム全体としては 122kHz まで音信号を扱えるそうです。

音源としてはオリジナル・マスターテープを使用。この中に収録されている音を半速でカッティング。ラッカー盤は音質を損なわないように特殊処理。

プチプチノイズが残ることもあるが、高品質のスタイラスでトレースしていれば音溝は磨かれてノイズは軽減されるそうです。

MFSL 製マイルスのアルバムは、“Amazon”、“Mobile Fidelity Sound Lab” で検索すると何枚も出て来ます。以上